

---

---

## ご挨拶

株式会社菱電社は、1935（昭和10）年2月11日三菱電機製品の販売を目的として設立されて以来、常に社会の要請に応えることを念願としつつ当地新潟の発展と共に歩みを重ね、戦後60年、節目の年に設立70周年に至りました。

この間、戦中戦後の混乱や新潟地震、さらには数次に及ぶ経済危機等、多くの試練に直面しましたが、その都度歴代役員社員一丸となってこれを乗り越え、激動の時代を生き抜いて今日を迎えることができました。これは偏えにお得意先各位をはじめ仕入先および関係各社、並びに株主各位の常に変らぬご支援と暖かい励ましの賜であったことに思い至る時、改めて感謝の念に満たされると共に感慨深いものがあります。衷心より深く感謝申し上げます次第であります。

今後も多難な経済環境が予測されますが、お客様の事業発展に貢献し安心感と存在感のある会社を目指して努力を重ねる所存でありますので、引き続き何卒よろしくご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

茲に、これまでの経過を記録に留めるため「70年の歩み」を作成致しました。ご笑覧賜れば幸甚に存じます。

# 70年の歩み

## 1. 設立の経緯

### (1) 当時の社会的背景

我国は、明治維新（1868）以来、西欧諸国の圧力に屈せず植民地化を回避するため懸命に近代化を進めた。日露戦争（1904～1905 / 明治37～38）後は世界に近代国家として認められるまでに成長したが、やがて軍事力を背景に満州や朝鮮半島に権益を広げ、大正から昭和初期には軍部の影響力が強大になった。満州事変（1931 / 昭和6）五・一五事件（1932 / 昭和7）二・二六事件（1936 / 昭和11）盧溝橋事件（1937 / 昭和12）等不穏な社会情勢となり、真珠湾攻撃から第2次世界大戦（1941～1945 / 昭和16～20）に突入することになる。経済面では1927（昭和2）の金融恐慌に加え、1929（昭和4）ニューヨーク株式市場の大暴落に端を発した世界恐慌は我国にも重大な影響を及ぼし、深刻な不況が長期化した。

以上の通り、当社が設立された1935（昭和10）年は明治維新の67年後、日露戦争の30年後、二・二六事件の1年前、終戦の10年前に当たる。

### (2) 設立前の三菱電機の販売網

当社が設立される7年前に、同名の(株)菱電社が設立されたことがある。当時、三菱商事(株)は三菱電機製品の総代理店として県内販路開拓のため特約店を物色中のところ、県内電力業界の中心人物であった中野四郎太（後述）から電力会社の電気工事特約店であった合資会社新電社（山本一郎、松本理三郎）を紹介された。山本一郎は「新潟は東京から遠隔地であるから一流メーカーの特約店の経営は成り立つ」と考え、昭和3年9月9日に(株)菱電社を設立した。しかしながら、業績は低迷し経営破綻に至ったため昭和9年11月28日に業務を停止した。

### (3) 設立

この事態を憂慮した三菱商事(株)の懇請を容れ、中野四郎太は資本金2万円（払込資本金1万円）で新たに(株)菱電社を設立した。当初は事務所を(株)中野組（現・(株)ナビック）の事務所内に置いた。初代役員および社員は次の通りであった。

代表取締役 中野 欽 治

取締役 上原 堅次  
 取締役 松原 秀三  
 監査役 飯村 俊雄  
 支配人 稲葉 保治  
 社員 飯村 豊雄、市川 重喜、山口 謙、畠山 慶子

本社店舗事務所は同年12月に古町通4番町582番地へ移転した。  
 なお、社章は初代代表取締役・中野欽治の考案によるものである。

---

## 2 . 沿 革

---

### ( 1 ) 設立後の主要事項

- 1935 (昭和10) 2 . 11 (株)菱電社設立。  
 本店所在地：新潟市上大川前通6番町1200番地  
 三菱商事(株)の特約店として三菱電機製品の仕入販売を開始する。(当時の特約店は全国45店)  
 他メーカー製品をミツワ電機商会(現・ミツワ電機(株))から仕入れる。取引銀行は長岡銀行新潟支店(現・北越銀行/古町支店)
- ” ” 12 . 5 本社移転。(新潟市古町通4番町582番地)
- 1943 (昭和18) 1 . 10 本社移転。(新潟市礎町二ノ町2076番地)
- 1944 (昭和19) 8 . 31 三菱商事(株)傘下の三菱電機(株)特約店が改廃され次の通りとなった。(全国15店)  
 神奈川電気(株)、(株)弘電社、(株)清康社、(株)菱電社、(株)立花商会、(株)竹菱商会、杉田興業(株)、(株)宮地商会、(株)植村商店、(株)岡商会、(株)神奈川電気小倉支店、(株)岡谷商店、(株)鈴与商店、(株)菱喜商会、中山機械(株)
- 1947 (昭和22) 7 . 3 GHQの財閥解体命令により三菱商事(株)が解散し三菱電機(株)との直接契約となる。(全国78店)
- ” ” (株)横河電機製作所(現・横河電機(株))製品の取扱いを開始する。(1949代理店となる)
- 1948 (昭和23) 4 . 1 決算期を半年に分ける。(1965 . 9 . 30まで)  
 そのため決算回数と社歴年数とが異なる。
- 1951 (昭和26) 2 . 2 (株)菱電商会設立。(三菱電機製品陳列所兼売店を古町通8番

			町に開設...1966(昭和41)閉鎖)
1961(昭和36)	11.1		上越営業所開設。
1964(昭和39)	6.1		社名を新潟三菱電機商品販売(株)に変更する。
"	"	6.16	新潟地震で被災する。
1967(昭和42)	5.1		(株)高助商店(現・(株)高助)の3階を借用し本社仮事務所をおく。
1968(昭和43)	8.19		本社移転。(新潟市新島町通四ノ町2237番地)
"	"	12.1	社名を再び(株)菱電社に変更すると同時に、新潟三菱電機家電販売(株)へ家電部門を移管し、中越地区の機器冷熱部門の移管を受ける。
1969(昭和44)	1.1		長岡営業所開設。(1987支店に)
1971(昭和46)	1.29		新潟菱電工事(株)を設立し工事部門を分離。
1975(昭和50)	3.1		柳島事務所倉庫新設。
"	"	10.1	三条事務所開設。(1980営業所に)
1994(平成6)	10.1		リョーデンシステム(株)を設立しOA部門を分離。
1997(平成9)	11.4		本社移転。(新潟市小新字大通3699番地1) (柳都大橋建設に伴う周辺道路拡幅のため)
1998(平成10)	4.24		ISO9002認証取得。(1999に9001認証取得)
1999(平成11)	10.1		電材部門を新潟ミツワ電機(株)へ移管。
"	"	"	冷熱部門を三菱電機冷熱機器販売(株)へ移管。
2000(平成12)	4.1		新潟菱電工事(株)の事業を当社へ集約。
"	"	5.10	リョーデンシステム(株)を三菱電機ビジネスシステム(株)へ譲渡。
2003(平成15)	5.8		環境エネルギー優良建築物認定。(本社ビル)
"	"	6.13	ISO14001認証取得。

## (2) 歴代社長

		( * は非常勤 )	( 常勤責任者 )
初代	中野 欽治	* 1935(昭和10) ~	( 稲葉 保治 )
2代	中野 四郎太	* 1943(昭和18) ~	( " )
3代	山崎 徳義	1947(昭和22) ~	
4代	中野 武夫	* 1965(昭和40) ~	( 中野 憲次、飯村 豊雄 )
5代	飯村 豊雄	1973(昭和48) ~	
6代	川合 栄一	1982(昭和57) ~	
7代	中野 仁	1993(平成5) ~	

---

### 3 . 創業者および歴代社長、並びに歴代役員

---

#### ( 1 ) 中野四郎太

当社創業者・中野四郎太は、その父平弥の旺盛な事業意欲に多大な影響を受けた。中野平弥（1849 / 嘉永 2 生、1918 / 大正 7 没、槇尾中野家18代）は西蒲原郡中野小屋村大字槇尾（現：新潟市槇尾）の庄屋に生まれ18歳で家督を相続した。1885（明治18）に新潟市新島町通四ノ町2238番地（後の当社旧本社所在地）を本拠地として中野組（個人企業）を起こし、信濃川汽船・精米・鉄工・製糸・木工・倉庫などを営んだ。1897（明治30）に新潟電燈(株)を資本金 5 万円で設立し新潟県初の火力発電所（165kw）を新潟市白山浦 1 丁目623番地に建設して同年12月に試点灯、翌年 3 月に営業を開始した。（明治41まで営業）その後、産業の振興には安価で豊富な電力が不可欠との観点から水力発電の将来性に着目し、1907（明治40）に新潟水電(株)を資本金30万円で設立、大荒川上流発電所（443kw）（現：新発田市荒川地内）を手始めに数多くの水力発電所を建設し電力を供給した。中野平弥は新潟の電力事業の先駆者であった。



中野四郎太（1879 / 明治12生、1964 / 昭和39没）は中野平弥の四男で、早くから父の発電事業に参画した。26歳で新潟電燈(株)の取締役、その後水力発電所の立地探査に単独で当るなど苦労を重ね、28歳で新潟水電(株)の取締役、30歳で同社取締役支配人となり、電力事業を通じて地域産業の発展に貢献した。新潟水電(株)は大正 9 年に新潟電気(株)となり、昭和 5 年に新潟水力電気(株)と合併し新潟電力(株)となった。その後、戦時中に配電統制令で東北配電(株)に、戦後は電気事業再編成令で東北電力(株)に統合され現在に至っている。中野四郎太は、明治中期から新潟の電力事業の中核で活躍した他、地域活性化のために数多くの企業を生み育てた起業家であった。三菱商事(株)から三菱電機製品の特約店経営について申し入れを受けた所以であり、これが当社設立の機縁となった。

他に中野四郎太が主宰（社長または実質的に支配）した主な企業は次の通り。

- ・ 1920（大正 9） 株式合資会社中野組（現・(株)中野組本店）
- ・ 1928（昭和 3） (株)昭和社（翌年(株)中野組に、現・(株)ナビック）
- ・ 1929（昭和 4） 昭和企業(株)（1936解散）
- ・ 1930（昭和 5） (株)国民無盡商会（1941北越産業無盡と合併し、大光無盡(株)、後に大光相互銀行、現・大光銀行）
- ・ 1932（昭和 7） 新潟合同自動車(株)（1942新潟交通(株)に）  
その後、新潟交通(株)関連会社多数

- ・1934（昭和9） 新潟人絹工業(株)（1941日本油脂(株)に合併）
- ・1938（昭和13） 新潟日産自動車(株)

以上の他、役員に就任し経営に関与した主な企業は次の通り

- ・新潟紡績(株) 後に名古屋紡績(株)と合併し、現・日東紡績(株)  
（新潟紡績(株)の初代社長は中野平弥）
- ・新潟臨港(株) 現・(株)リンコーコーポレーション  
1931から1940まで社長に就任
- ・新潟港湾倉庫(株) 後に臨港倉庫(株)と合併し、現・日本海倉庫(株)
- ・日本瓦斯化学工業(株) 1951設立時に取締役、後に監査役に就任（1961まで）  
（現・三菱瓦斯化学(株)）

## （2）歴代社長のプロフィール



初代：中野 欽治

1890（明治23）生、1965（昭和40）没

早稲田大学大学部商科（現・商学部）卒業。榎尾中野家19代。平弥二男敬次郎の長男。平弥長男貫一郎が早世したため平弥の養子となり家督を相続した。(株)中野組本店など関連会社多数の代表取締役を兼任する傍ら、大光無盡(株)（現・大光銀行）副社長などを歴任した。

2代：中野 四郎太（前述）



3代：山崎 徳義

1887（明治20）生、1966（昭和41）没

京都帝国大学（現・京都大学）工学部土木工学科卒業。中野四郎太の下でダム設計技師として水力発電所建設で活躍した。後に、新潟臨港(株)の常務取締役を経て当社社長に就任した。



4代：中野 武夫

1897（明治30）生、1984（昭和59）没

東北帝国大学（現・東北大学）工学部化学工学科卒業。長岡市・大森佐七郎五男。日本油脂(株)入社の後、中野四郎太の一人娘ヤスと結婚し四郎太の養子となる。新潟乗合自動車(株)常務、新潟人絹工業(株)技師長を歴任、天然ガスを採掘しバス燃料化に成功するなど、中野四郎太の事業を補佐し継承発展させた。新潟交通(株)社長在任中に万代シティ開発構想を認可し推進した。



5代：飯村豊雄

1910（明治43）生、1998（平成10）没

日本大学工学部電気工学科卒業。中野四郎太の甥（姉ソウの四男）。第一種電気主任技術者。合同電気(株)（後、東邦電力(株)に合併）勤務の後、当社設立と同時に当社に入社し、常務・専務を経て社長に就任した。新潟県電設資材卸業協同組合・理事長、日本冷凍空調設備工業連合会・会長として業界の発展に尽力した。



6代：川合栄一 1922（大正11）生

早稲田大学専門部工科（現・理工学部電気工学科）卒業。高田市出身。三菱電機(株)入社、同社理事・新潟支社長を退任後、当社社長に就任した。部門別目標管理制度を確立するなど経営改革を推進した。

7代：中野仁 1941（昭和16）生

早稲田大学政経学部経済学科卒業。中野武夫四男。1963新潟いすゞ自動車(株)入社。1965当社入社。常務・専務を経て社長に就任（現在）

●初代社長に中野欽治が就任した経緯

中野四郎太は当社を設立したが本人は取締役役に就任せず、一族の本家の当主・中野欽治（本人の甥）を非常勤の社長とし、別に常勤責任者（支配人、後に専務取締役）をおき日常の経営管理に当らせた。

●2代社長に中野四郎太が就任した経緯

当時(株)中野組は(株)明電舎の代理店であったため、両社の社長を兼任することは問題があるとの判断から当社社長を中野四郎太に変更した。社長は非常勤で、引き続き別に常勤責任者をおいた。

●3代社長に山崎徳義が就任した経緯

昭和22年7月21日独占禁止法が施行され、同一人が3社以上の役員に就任することが禁止されたため、新たに山崎徳義を社長に選任した。山崎徳義は新潟水電(株)時代から中野四郎太の信頼が厚かった。

（3）歴代役員（取締役および監査役……就任年次順）

- ・中野欽治      ・上原堅次      ・松原秀三      ・飯村俊雄      ・角南静彦
- ・稲葉保治      ・大倉勘一      ・中野四郎太      ・中野武夫      ・福田龍精

- ・中野鉄二
- ・中野茂
- ・高田清
- ・平沼容
- ・武者慶之助
- ・今井国男
- ・中野乙吉
- ・中野進
- ・中野龍子
- ・宮尾益敏
- ・百瀬順一郎
- ・中野純
- ・永杉正徳
- ・山崎徳義
- ・麩沢伊勢蔵
- ・浜浦英祐
- ・五十嵐富作
- ・正木節郎
- ・渡辺操
- ・見崎義昭
- ・鈴木公一
- ・小林祥二
- ・岩澤輝夫
- ・中村正義
- ・牧野陽
- ・中野彪
- ・上原彦六郎
- ・高木英一
- ・飯田和郎
- ・中野仁
- ・風間進之助
- ・本間昭男
- ・渋谷浩正
- ・本田昭治
- ・飛澤新治
- ・山本義雄
- ・岡村健吉
- ・中野ヤス
- ・高橋助七
- ・天野信之
- ・千石剛
- ・上原敦
- ・川合栄一
- ・梶谷健士
- ・池田忠之
- ・佐藤勇
- ・中野道夫
- ・金子仁
- ・町屋久
- ・飯村豊雄
- ・中野憲次
- ・宮代武夫
- ・奥村靖彦
- ・本井勤
- ・中山博
- ・関本弘
- ・檜貝太郎
- ・佐々木道夫
- ・長谷川勤
- ・高橋秀松
- ・小池抱一

(以上71氏)

---

## 4 . 当社の現況

---

### (1) 企業理念、経営目標、経営基本方針

設立当時の社は「和衷協力」「公私共益」という簡潔なものであった。その後幾多の変遷を経て、現在は次の通り定めている。

#### 企業理念（経営の目的）

「電機・計測制御・情報システムで高品質なサービスを提供し、地域産業の発展と快適な都市環境の実現に貢献する」

「お客様の事業発展に貢献し喜んで戴くとともに、その成果としての適正利潤で会社と社員の繁栄を図る」

#### 経営目標（どんな会社を目指すか）

「お客様の立場から見て、安心感と存在感のある会社を目指す」

「景気の変動に左右されない強靱な企業体質を目指す」

#### 経営基本方針（そのためにどうするか）

「顧客満足度向上によって会社と社員の存在価値を高める」

「利用技術力とシステム技術力を競争力の源泉とし、現場密着型提案営業を推進する」

「徹底した原価管理と経費節減で付加価値を高める」

「ISO9001および14001の継続的改善を会社運営の基軸とする」

「リスク管理の徹底と企業の社会的責任への取り組み強化で経営品質を高める」

## (2) 事業内容

当社の主要な事業は、産業用およびビル用の電機・計測制御・情報システムの販売とシステム開発である。省エネルギー・自動化・省力化・高精度化・リードタイム短縮・トレーサビリティ・セキュリティ・遠隔監視・研究開発・快適環境・環境保全・予防保全などを目的とする機器やシステムを提供している。

当社の顧客はすべて電気の専門家や購買のプロであるため発注先の選別は極めて厳しく、技術力・価格・納期・ビジネスマナーのいずれにおいても高く評価される体制を整える必要がある。そのため、技術力の水準とISO9001品質マネジメントシステムおよびISO14001環境マネジメントシステムの信頼性を高め、顧客満足度向上を目指している。

## (3) 事業規模および公的資格

資本金	80,000千円
従業員数	正社員 90名(他に嘱託・パート9名)
売上高	5,837,129千円(2004/9/30期)
経常利益	124,406千円( " )
営業拠点	新潟・長岡・上越・三条
建設業許可	電気/県知事許可(特-11)第3098号 管・機械器具設置・電気通信/同(般-11)第3098号
ISO9001	1998/4認証取得(JQA2311)
ISO14001	2003/6認証取得(JQA-EM3228)

## (4) 現役員

・代表取締役社長	中野 仁
・専務取締役(営業本部長)	佐藤 勇
・常務取締役(経営企画部長)	岡村 健吉
・取締役(産業機器営業部長)	町屋 久
・取締役(長岡支店長)	小池 抱一
・取締役	中野 進、金子 仁、山本 義雄、 上原 敦、高橋 秀松、中野 純
・監査役	中野 龍子、宮尾 益敏、永杉 正徳
・顧問	関本 弘

---

---

## 結 び

21世紀に入って5年目となりました。

我国の当面の経済状況は、ようやく一部に長期不況を脱した感はあるものの、全体としては未だに確固とした安定成長への復帰を果たせず、一進一退の状態を続けているように見えます。巨額の財政赤字、年金会計、少子高齢化、凶悪犯罪の増加等の諸問題は、対応を誤れば日本社会全体の活力の減衰を招きかねず、さらには国際情勢もまた民族主義の台頭などの大きな不安要素をはらみ、将来への不透明感は一向に解消されないまま激変の予感すら抱かせられます。

こうした中において我々菱電社一同は、前途に横たわる困難を冷静に受け止めつつ、しかしたじろぐことなく、一步一步着実に歩むことにより先輩の積み上げた成果を継承し更に発展させるべく、不断の努力を重ねる覚悟であります。我々はいつの時代にも変らぬ信念とたゆまぬ行動力とを持ち続け、地域社会の発展にいささかなりとも寄与したいと願うものであります。

以上、我々のささやかなる決意をお汲み取り戴き、倍旧のご支援を賜りますよう、茲に改めて重ねてお願い申し上げます。

設立70周年に当り所信の一端を申し述べ、結びと致します。

2005（平成17）年2月11日

株式会社 菱 電 社

代表取締役社長 中 野 仁





旧本社：新潟市礎町二ノ町2076番地



(株)菱電商会：新潟市古町通 8



旧本社：新潟市新島町通四ノ町2237番地



本 社



本社ビルは、平成15年に  
建築環境省エネルギー  
機構から「環境エネルギー  
優良建築物マーク」の交付  
を受けました



長岡支店



上越営業所



三条営業所



JQA - 2311



JQA - EM3228